

**特集** 北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群を世界遺産に… P1~2  
 北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群を世界遺産に・情熱!レポート… P3  
 がん検診を受けましょう・がん地域連携バスの運用が始まっています… P4  
 認知症対策について・青森県産業技術センターPR館 …… P5  
 青森県復興プラン・申吾のほっとコラム …… P6  
 イベント特集「日本の祭りinあおもり2011」 …… P7  
 インフォメーション …… P8

# あおもり



情熱  
特集

## 縄文の魅力を広く伝えたい

北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群を世界遺産に

縄文の案内役 是川縄文館ボランティアの皆さん

**A.Q.** ガイドのやりがいはいどんなところにありますか？

なんといいっても、子どもたちとのふれあいが楽しいですね！風張遺跡から出土し、平成21年に国宝に指定された「合掌土偶」の前では、子どもたちいろいろな質問をするんですよ。「合掌土偶は、男、女どっちだと思っ？」。女だよ。だって、おっぱいがあるもん！」「両手を合わせてお祈りしてるみたいに見えるけど、縄文時代の人は何を祈っていたと思う？」。そこから広がる子どもたちの回答は実にさまざまで、縄文時代の暮らしに対する想像力や興味がふくらんでいきます。また、県外のお客様からお手紙を頂戴したり、年賀状をやりとりするなど、ガイドをきっかけに新たな交流が生まれるのも楽しいですね。

**A.Q.** 「縄文は川ボランティア」の活動内容について教えてください。

縄文時代の文化や技術を学んでからおうち、平成8年に土器作りの体験学習指導ボランティアを始めたのがきっかけです。平成11年からは、縄文は川ボランティアという名称で、体験学習指導のほかには川石器時代遺跡のガイドも行って来ました。さらに、今年7月には「八戸市埋蔵文化財センター」は川縄文館が開館したので、館内の展示室のガイドも担当しています。現在、メンバーは55人。定年退職した教職員やサラリーマン、主婦など60代を中心に、最高齢では80代のメンバーもいるんですよ。皆さん楽しんでもらうためには、まず自分が楽しまなくては！と、みんな明るく意欲的に活動しています。

悠久の時を  
合掌土偶に思い

**A.Q.** 現代に生きる私たちが、縄文時代の人々に学ぶべきことは？

縄文晩期の土器からは、高度な技術と芸術的センスの高さがうかがえます。ゆっくりと時間をかけて、祈りを込めて、土器や土偶を作っていた当時の人々へ、もしかして現代人よりも精神的に豊かだったのでは？ 効率を最優先し、文明の豊かさばかりを追求してきた現代人は、縄文人の精神世界に学ぶべきところが大いなのではないでしょうか。

**A.Q.** オープンしたばかりの「是川縄文館」の紹介をお願いします。

外観・館内共に赤と黒の漆をイメージカラーにし、のびやかな空間が広がる縄文浪漫あふれる施設です。2階、常設展示室では、是川遺跡と風張1遺跡の出土品を中心に展示し、合掌土偶も見られます。1階では土器作りやドングリクッキーなどの体験が楽しめるほか、ミュージアムショップや喫茶コーナーもあります。

**A.Q.** 是川石器時代遺跡の魅力とは？

是川石器時代遺跡は、縄文時代の掘田遺跡(中期)・一王寺遺跡(前・中期)・中居遺跡(晩期)の三遺跡の総称。特に中居遺跡の低湿地は、泥炭層という遺物が腐りにくい土層だったため、トチやクルミなどの殻のほか、赤や黒の漆を塗った弓や飾り太刀、クシ、耳飾り、藍胎漆器など、優れた美術工芸品が保存状態の良い状態で出土しています。大正昭和の初めにかけて地元泉山岩次郎・泉山斐次郎両氏によって発掘が行われましたが、その出土品を大切に守り続けてきたことで、散逸することなく今に受け継がれてきたことも素晴らしいですね。